

「コロナ禍から学ぶ～偏見を持つ心に対応する～」と題して、公衆衛生・感染症予防が専門の岩室紳也医師（横浜市在住）が徳島市内で講演した。新宿など「夜の街」で行った新型

コロナウイルス感染予防対策を紹介しながら「犯人探しの発想から抜け出し、一人一人ができる事をしよう」と呼び掛けた。根絶ネットなど主催。要旨は次の通り。（植松裕子）

コロナ禍から学ぶ～偏見を持つ心に対応する～

新型コロナウイルスが感染拡大する中、発症する人・しない人、無症状でも感染力がある人・ない人、感染しない人がいる。これは、予防措置や暴露ウイルス量、個々の免疫力などが影響すると考えられる。一般的な健康状態なら、予防措置で体内に入るウイルス量を減らすことが重要だ。

■ 感染予防

岩室医師（感染症予防専門家）徳島市で講演



「一人一人ができる事をしよう」と呼び掛ける岩室医師＝徳島市内

犯人探しの発想脱却を

暮
ら
し

ロゾルに比べて20億倍となる。5m以上の飛沫は正面に飛び、左右に大きく広がらない。500mの大きい飛沫は直下へ、5mなら2m以内に落と下する。5m未満のエアロ

ソルは1時間程度10cmの範囲を浮遊して落ちる。最終的に落としたウイルスは床やテーブル、料理などの媒介物に付着し、感染力は1週間前後持続する。大切なのは体内への侵入経

路であるのどや鼻、目の粘膜にウイルスを接触させないこと。飛沫、エアロゾル、唾液、接触（媒介物）による感染をどう防ぐか。予防策として、以下のエチケットを実践してほしい。

▼会話や食事時には相手の顔や料理などに飛沫をかけない▼料理や食器は他人から遠くに置く▼マスク表面を触らない▼換気は排気口に向けて空気の流れを創出する▼口にものを入れる直前と施設利用前後の手指衛生▼キス前後に何か飲むなど。マスクの材質も重要で、飛沫が出るボリュウタンやフェースシールド、（機能性に差がある）布よりも、不織布マスクを勧める。マスクはエアロゾルを増やす側面もあるので、（排気

ができる飛沫を飛ばさない条件下など）可能な場合は外したい。クラスターの発生場所に

てもいい。

いても感染しない人もいる。その差は何か。根本原因やリスクとは何か。感染した人たちはから丁寧に話を聞くことで手がかりを得られるはずだ。感染を他人事ととらえてしまふと、誤解や偏見につながる。感染は誰もが抱えるリスクや状況だと受け止め、自分としてとらえてほしい。

まず一度自分が感染している「隙があった」「意識の緩み」と言う。新型コロナは「気合」で予防できるのか。こうした言動が「犯人探し」を助長してはいないだろう。

ただ、どんなに気を付けていても、感染することはあっても、感染している限り「ついうつかり」はある。それは誰にでも起こりうること。早く「犯人探し」の発想から抜け出し、リスクを正しく理解してほしい。日々のエチケットを積み重ねる。一人一人、できる人が、できるこ

ウイルスは水分に包まれ、水分量の差が飛沫の大きさの差になる。大きさが違えば含まれるウイルス量も異なる。大きな飛沫に含まれるウイルス量は、より小さな飛沫エア

は生きづらさを感じるようになり、「こころを病む」人も増えた。マスク警察や自肃警察もそう。こんな時期だからこそ、信頼、つながり、「お互に」「こころを病む」人々とのつながり、「ついうつかり」はある。それは誰にでも起こりうること。早く「犯人探し」の発想から抜け出し、リスクを正しく理解してほしい。日々のエチケットを積み重ねる。一人一人、できる人が、できることをしていこう。